

# 行歯会だより 第103号

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会) 平成 27 年 6 月号

## 【今月の記事】

### 1 口腔衛生学会報告

滋賀県甲賀健康福祉事務所(甲賀保健所)健康づくり担当 上野 路子

### 2 若手奮闘記No.3

栃木県健康福祉部健康増進課生活習慣病医療担当 中山 竜司

### 3 書籍紹介 「災害時の歯科保健医療対策 連携と標準化に向けて」

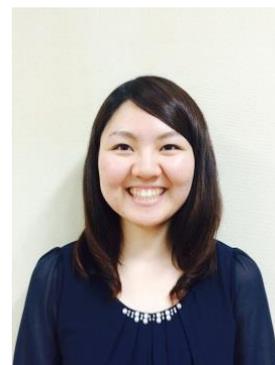
東京医科歯科大学顎顔面外科(行歯会賛助会員) 中久木 康一

## 1 口腔衛生学会報告

第 64 回日本口腔衛生学会・総会 in つくばに参加しました

滋賀県甲賀健康福祉事務所(甲賀保健所)健康づくり担当 上野 路子

はじめまして、滋賀県甲賀健康福祉事務所(甲賀保健所)の上野と申します。まず、この場をお借りして、簡単な自己紹介をさせていただければと思います。滋賀県では平成 26 年 12 月に歯科衛生士 2 名が採用され、そのうちの 1 名が私です。滋賀県には縁もゆかりもない私でしたが、ようやく滋賀県にも慣れ始めてきた所存です。まだまだ新米の歯科衛生士ですので、皆様よりこれからも多くのことをご教授いただければと思っております。今後とも何卒よろしくお願いたします。



さて、第 64 回日本口腔衛生学会が、平成 27 年 5 月 27 日～29 日に茨城県つくば国際会議場で開催されました。今回の総会テーマは「良い歯で、よく噛み、健康長寿」であり、地域包括ケアをメインテーマとしたシンポジウムが開催されました。残念ながら、メインシンポジウムは自身の一般口演と重なり、聞くことができませんでしたが…学会の概略について簡単ではありますが、報告させていただきます。

## ★認定医研修会

### 「Health-oriented Concept と歯周病の宿主強化療法」

渡邊達夫先生（岡山大学名誉教授）

患者さんの「健康を保持増進する」ために歯科医師として何ができるのかを考えて診療する Health-oriented Concept による診療が口腔衛生学会における独自性であると講演されました。う蝕におけるフッ化物応用と同様に、宿主を強化する歯周病の予防治療としてつまようじ法を推奨され、その効果についてのお話がありました。

### 「県・保健所での公衆衛生活動と歯科保健活動」

井下英二先生（滋賀県健康医療課健康寿命対策室室長）

滋賀県では平成26年12月26日に「滋賀県歯および口腔の健康づくりの推進に関する条例」が公布・施行されています。講演では、滋賀県における歯科保健活動や保健所における公衆衛生活動等の概要、保健所長就任までの経緯について講演されました。

## ★特別講演

### 「地域包括ケアシステムに求められる専門職の在り方 - 歯科医療職への期待と多職種協働の推進のための方策 - 」筒井孝子先生（兵庫県立大学大学院経済研究科教授）

新たな医療提供体制デザインとして Integrated care（統合ケア）採用される動きがあります。この Integrated care を推進するにあたり、国民全体の医療制度に関わるビジョンの共有（normative integration:規範的統合）が求められます。地域包括ケアシステムにおけるケアの連携は、単に複数の提供主体が繋がれば良いということではなく、①linkage（つながり）、②coordination（調整）、③full integration（統合）というレベル（強度）の異なる連携を、効果的・効率的に組み合わせることが必要で

あるようです。フィンランド等では「ラヒホイタヤ」が導入されています。ラヒホイタヤとは、従来の10種の社会保健サービスに関わる資格（歯科助手、保育士、准看護師、ホームヘルパーなど）を統合し、より広範な知識・技能を有する資格にランクアップさせたものだそうです。これは、日本でも進められていこうとされており、対人援助職全般にまたがる資格教育・キャリアパスを再編する必要性について講演されていました。



## ★シンポジウム

### 「生涯にわたるフッ化物利用の教育を考える」

フッ化物応用をより一層普及していくためには、歯学部における教育も重要です。全国の歯科大学における予防歯科学・口腔衛生学およびフッ化物に関する教育の実態を調査した研究で、大学によってフッ化物応用に関する教育や実習の時間が大幅に違うとの報告がありました。教育の拡充の必要性を感じ、フッ化物応用の推進について考える機会となりました。

## ★シンポジウム

「東日本大震災後の関係機関における災害時歯科保健医療の取組 - 大規模災害に備えて - 」

東日本大震災後には身元確認作業や歯科医療救護の実施等の多岐にわたる取り組みが行われ、行政・歯科医師会・大学等のそれぞれの取組および課題について報告がありました。今後想定される大規模災害に備えた災害時歯科保健医療の体制づくりの必要性、災害時アセスメントについて検討しなければならないと思いました。

今回の学会では、自身の初めての一般口演での発表もあり、反省点や今後の研究の課題等が見つかりました。自身の発表および先生方の発表からは学ぶことが多く、刺激を受けました。大学院生として研究に対する姿勢および行政の歯科専門職としてどのようにあるべきかを考えることができるよい機会になりました。今後とも研鑽を積み、地域での取り組みにつなげていきたいと思えます。



ちなみに、右の写真のように、懇親会では筑波山名物ガマの油売り口上が披露されました。

最後になりますが、この場をお借りしてお知らせさせていただきます。平成27年7月25日(土)、26日(日)に夏ゼミ in ししが2015(第33回地域歯科保健研究会)が開催されます。今回のテーマは「継承」です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 2 若手奮闘記 No. 3

栃木県健康福祉部健康増進課 中山 竜司

### 【はじめに】

行歯会の皆様、いつも貴重な情報や御助言いただき誠にありがとうございます。

先日、つくば市で開催された日本口腔衛生学会でなんとなく歩いていたら、東京都の田村光平先生から“若手奮闘記の依頼がきますよ”と声をかけられました。“えっ！そんな話聞いてないよ”と言う間に依頼文が届きました。若手というには微妙な年齢(40を前に今でも毎日、右往左往しています)ですが日頃感じていることなどを書かせていただければと思います。



### 【自己紹介】

最初に自己紹介をさせていただきます。私は栃木県宇都宮市の出身で平成12年に日本大学松戸歯学部を卒業し、東京医科歯科大学顎顔面外科(旧第一口腔外科)に入局しました。

平成14年からは埼玉県立がんセンター口腔外科に3年間レジデントとしてお世話

になりました。その時の影響で病理診断にはまり、顕微鏡で病理切片を覗くのが大好きになってしまいました。平成17年に東京医科歯科大学顎顔面外科に戻り、平成18年から平成24年度まで地元の自治医科大学歯科口腔外科〔栃木県下野市（しもつけし）〕に移り勤務していました（口腔外科専門医を取得したり、医局長を経験することが出来ました）。人生の方向転換は平成25年で、行政職に転身し、ちょうど3年目になります。

口腔外科出身の行政歯科医師は少ないと思いますので、学会、研修等の際に気軽にお声かけいただければ幸いです。

#### 【栃木県の歯科専門職配置状況】

県庁には小職の他に歯科保健指導専門員として嘱託で歯科衛生士が1名勤務しております。また、栃木県立衛生福祉大学に青山副校長兼歯科技術学部長が勤務されており、合計3名という状況です。

#### 【本県の事業と課題】

本県には栃木県民の歯及び口腔の健康づくり推進条例、栃木県歯科保健基本計画があります。施策の柱は

- 1 歯や口腔と関係する病気等の予防の推進
- 2 歯や口腔の健康に関する啓発と検診の普及
- 3 障害児者・要介護高齢者への歯科保健医療サービスの確保
- 4 歯科保健医療提供体制

の整備があります。現在の進捗状況は下記のとおりとなっております。



(NHKときめきとちぎ)

- (1) 既に会員の皆様に御連絡させていただきましたが、再度こちらで告知させていただきます。

栃木県では、心身ともに健やかに歳を重ねていくことができる地域社会の実現に向けて「健康長寿とちぎづくり」を推進しています。生涯を通して健康な生活を送るためには、子どものころから、適切な生活習慣を身につけ、健康づくりのための正しい知識を習得することが重要です。そのため、小学生を対象とした「子どもの健康づくりのための啓発教材『みんなの健康づくり』(DVD)」を作成しました。

歯と口腔の健康づくりに関して、「歯磨きは健康づくりの第一歩」として県立衛生福祉大学 副校長兼歯科技術学部長の青山 旬先生に出演いただいております。

ぜひ、下記のアドレスにアクセスいただき、御覧くださいませよう申し上げます。

<http://www.minnanokenko-tochigi.jp/>

- (2) 歯科検診の普及を目的とし、標準的な成人歯科健診プログラム・保健指導をモデル事業として補助金を設けました。対象は県内の医療保険者としましたが、

目下、某自治体（1市）のみ実施となかなか普及する様子がまだみえてきません。平成30年度に向けて皆様方はどのように対処される御予定でしょうか。

（3） 障害児者・要介護高齢者への歯科保健医療サービスの確保として、栃木県障害児者歯科医療システムの見直しを行いました。今後、北海道、新潟県さんを参考に制度をリニューアルする予定です。少しずつ、県内で障害児者歯科医療の裾野が広がっていくことを期待しています。

（4） 歯や口腔と関係する病気等の予防の推進の一環として8020運動・口腔保健推進事業を活用し、摂食嚥下指導普及事業を平成26年度から3年計画で実施中です。昨年平成26年度はマニュアルを作成し、本年度は歯科医師以外の医療従事者、県民を対象に講演会を開催する予定です。来年度は症例検討会を開催したいと考えています。

なお、口腔保健支援センター設置について現時点では未定です。

現在の重要懸案事項は地域医療介護総合確保基金に今年から介護分野が加わります。介護分野が加わることで事業内容にどのような影響が及ぶのかということと〔今年度の本県事業は在宅歯科医療連携室の整備、在宅歯科医療従事者研修会、在宅歯科医療設備整備（開業医個人がポータブル診療器を購入する際1/3を補助、歯科衛生士再就職支援を予定）〕。

もう1点は地域医療構想です。地域医療構想策定ガイドラインに在宅医療を受けている患者に対する口腔機能の管理などの機能を担う歯科診療所及び後方支援を行う病院歯科等が医科医療機関等と連携体制を構築することが重要と記載されています。これからの歯科医療機関は従来型の医院型ではなく、訪問歯科診療等に対応する柔軟かつ効率的な運用が求められるという理解で良いのでしょうか。

また、緩和ケア研修会に歯科医師の受講促進が掲げられるなど世の中は常に変化していく中、本県はややもすると独自のリズムで動いているような印象があり、良く言えば“マイペース”、悪く言うと“のんびり屋さん”（自分自身の仕事ぶりへの自戒の念も含め）

と言ったところでしょうか。

#### 【最後に】

普段なかなか膝を突き合わせて喧々諤々議論することが出来ないのでメーリングリストや行歯会だよりは非常に活用させていただいております。だからこそFACE to FACEの機会を大切にしたいと最近痛感しております。

今後も栃木県の歯科保健のより一層の普及推進に努めてまいりたいと考えておりますので、

引き続き、皆様方の御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 3 書籍紹介

#### 「災害時の歯科保健医療対策 連携と標準化に向けて」

東京医科歯科大学顎顔面外科（行歯会賛助会員） 中久木 康一

東日本大震災から4年が、阪神・淡路大震災からは20年が、経過しました。

特に、甚大な広域災害が予想されている地域においては、「命を守る歯科医療」と「生活を支える口腔ケア」を、歯科関係者のみならず災害に関係する全ての職種の連携のもとに提供・継続していく体制の構築が必要とされています。

そこで、日本災害時公衆衛生歯科研究会 (<http://jsdphd.umin.jp/>) として、国立保健医療科学院の安藤雄一先生、神奈川県厚木保健福祉事務所の北原稔先生にご参画いただき、「災害時の歯科保健医療対策」に関する最新の情報を取りまとめ、明治三陸大津波から119年の6月15日に発刊いたしました。

「災害時にも、歯と口を通じて住民の健康を守る！」ために、多くの方々にお手にとっていただき、各地域においてご活用いただければと思います。また、歯科医師の教育コアカリキュラムや国家試験出題基準に「災害時の歯科保健医療」が記載され、歯学教育における災害時教育の要望も増しておりますが、そのような際にも参考資料としていただければ嬉しく感じます。

主旨には広くご賛同をいただき、日本歯科医師会・日本歯科衛生士会・日本歯科技工士会からご推薦をいただきました。出版社には、「連携と標準化」に向けて個人でも手にとりやすいようにと、破格の価格設定をしていただきました。そして、ほとんどの著者の方々には、数冊の献本のみにてご執筆いただきました。この場をお借りして、関係各位に御礼申し上げます。

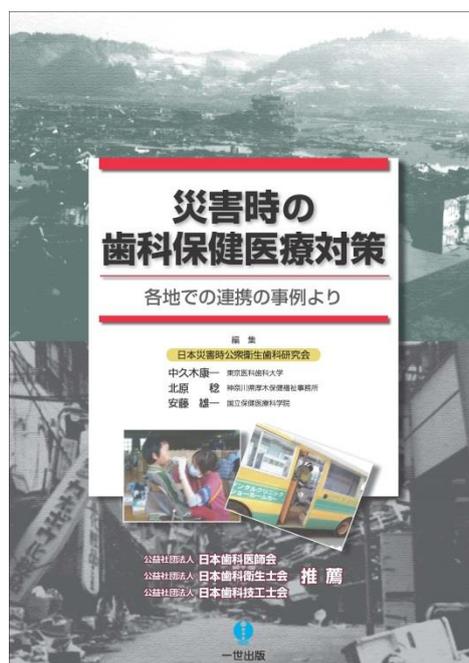
ぜひ、みなさまのお手元にも置いていただき、ご活用いただければありがたいと思います。

災害時の歯科保健医療対策 連携と標準化に向けて

編集：日本災害時公衆衛生歯科研究会 中久木康一，北原稔，安藤雄一

発行：2015/6/15，一世出版，¥2,000（税別）

- ▽寄稿▽第1章「災害時の保健医療における歯科」
- ▽第2章—1「災害時の歯科保健医療対応 歯科医療支援、歯科医療体制の継続」
- ▽第2章—2「災害時の歯科保健医療対応 口腔ケア／歯科保健支援」
- ▽第2章—3「災害時の歯科保健医療対応 即時義歯への対応」
- ▽第3章「歯科医院／歯科医師会としての災害への準備」
- ▽第4章「歯科における災害教育／研修」
- ▽第5章「災害時の精神・心理的ストレス」
- ▽第6章「連携する職種における災害への準備」
- ▽第7章「地域における経験」
- ▽資料



## 編集後記

(K) 上野さんの『滋賀県には縁もゆかりもない私』のフレーズに十数年前の自分を思い出し、中山先生の『若手というには微妙な年齢』に現在の自分の状態を再認識し、地域医療構想の内容には共感し、「さあ、うちの地域も」と将来に向かって頑張る気持ちになれる103号でした。Fさん、編集ありがとうございます。

(F) 今回から、書籍紹介が復活しました。

ぜひ会員の皆様に紹介したい！本などがありましたら、編集担当までお知らせください。簡単なコメントもお願いしますね。

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。